

## 平成30年度 南アルプス市立若草南小学校学校関係者評価書

平成31年1月23日（火）  
学校関係者評価委員会作成

### 第4回学校関係者評価委員会

実施日：平成31年1月22日（火）午後1時30分～

場 所：若草南小学校校長室

参加者：学校関係者評価委員・教職員

金丸 忠仁（藤田区自治会長、学校評議員）

弥富 賢士（浅原区自治会長、学校評議員）

深澤 美香（主任児童委員、学校評議員）

数野 朝道（PTA 会長、学校評議員）

加藤 芳江（PTA 副会長、学校評議員）

飯野 章（元若草南小学校長）

河野 良一（校長）

時田 直人（教頭）

石川 和樹（教務主任）

#### 1 学校側から提案の内容

①学校関係者評価の趣旨

②評価の全体的な傾向について

③児童アンケートの内容と結果について（前期と後期を比較して）

④教職員自己評価シートの内容と結果について（前期と後期を比較して）

⑤保護者アンケートの内容と結果について

⑥まとめ…今後の課題（重点目標）について

#### 2 協議された主な内容

①学校自己評価についての全体評価について

②項目ごとの評価・達成状況・改善策について

③重点課題の取組の成果と今後の改善策について

### 《学校関係者評価書》

#### I 全体評価

教職員評価・児童アンケート・保護者アンケートの結果を見るとほとんどの項目で肯定的評価が80%以上で、ここ数年あまり変わっていない。この結果からも学校経営が学校長の指導の下しっかり行われ、保護者や児童も学校教育に概ね満足していると考えられる。

## II 学校関係者評価委員会で出された主な意見

- 若草南小学校では、職員同士の暖かい信頼関係が成り立っていると感じる。そのことが子どもに与える影響は大きい。教師の存在の大きさを感じる
- 子どもにとって学校は楽しくなくてはならない。学力とか友達関係とか、一人ひとりに寄り添う指導を心がけてほしい。忙しい中ではあるがしっかりと子どもを分析してほしい。
- 児童が全体的に落ち着いて学習している。特に6年生は中学生を意識した努力目標が掲げられていた。
- 家庭学習のあり方は、両親共働き家庭にとって負担は大きい。実際のところなかなか見てあげることができていない面もある。ハンコのみになってしまっている家庭も多いのではないかと感じる。
- 様々な面で二極化が心配される。学習面・スポーツ面ともにみられる。「できる・できない」と「する・しない」と両面あるので、児童一人ひとりをよく見ていきたい。また、小学校の時には、多くの事を経験させてあげたい。
- 学校行事を大切にしていきたい。行事は子どもを育てることにつながっている。小さいころからいろいろな経験を積むことで、友だちとのかかわりや集団の中で学ぶことができる。
- 学校での体験活動など、行事が人を育てていく面は大きい。これからも大事にしていきたいが、取捨選択も必要である。
- 地域とのかかわりも大切にしていきたい。春や夏のまつり、防災訓練など地域の中で子どもたちを育てていきたい。
- あいさつ運動についてはよく取り組んでいると感じる。しかし、今の時代の中で知らない人にはあいさつをしないという家庭の方針も見られる。

## III 今後の改善策・重点課題について

- ①すべての児童が、楽しいと思えるような「居心地の学校づくり」を進める。
  - ②授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、「学び合う環境づくり」に努める。
  - ③「家庭学習」を充実させる。
  - ④「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度で指導にあたる。
- 本日話し合われた内容をもとに、これからも継続して今までの指導を行い若草小学校児童のより良い成長に、学校・保護者・地域が一体となって取り組んでいくことを確認する。